

## 岩手県水産技術センターから岩手県立博物館に移管された 岩手県産魚類標本目録

後藤友明<sup>1</sup>・渡辺修二<sup>2</sup>・藤井千春<sup>3</sup>

Catalogue of Fish Specimens from Iwate Prefecture,  
Transferred from Iwate Fisheries Technology Center to Iwate Prefectural Museum

Tomoaki GOTO, Shuji WATANABE, and Chiharu FUJII

- 
- 1 岩手県水産技術センター 026-0001 岩手県釜石市大字平田3-75-3 Iwate Fisheries Technology Center, Kamaishi 026-0001, Japan
  - 2 岩手県立博物館 020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34 Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan
  - 3 盛岡市立高等学校 020-0053 岩手県盛岡市上太田上川原96 Morioka Municipal High School, Morioka 020-0053, Japan
- 

### Abstract

Iwate Fisheries Technology Center is an experimental institution established in 1910 for fishery of Iwate Prefecture located at bayside area of Kamaishi, the Pacific coast of northeastern Japan. A lot of marine animals, including ca. 1000 fish belonging to more than 200 species collected from off the waters by the fisheries resource observations, have been preserved as scientific specimens. However, most of these specimens were washed away due to the Tohoku earthquake and tsunami disaster on March 11, 2011. We decided to transfer the specimens to Iwate Prefectural Museum, located in Morioka, the center of Iwate Prefecture, in order not only to prevent loss of the specimens and associated data by such disasters but also to organize the management of the preserved specimens for scientific purposes. A total of 46 fish collections including 19 specimens survived from the disaster have been transferred since 2014. This paper listed 39 species of 26 families including six first records from the waters with inventory information.

## はじめに

岩手県の沿岸は、大部分が入り組んだ海岸線で構成されるリアス海岸を形成している。この海域は、親潮、黒潮、および津軽暖流が入り交じる複雑な海洋構造を呈し、変化に富んだ生産性の高い海洋環境を背景として多様な魚類が漁獲されている。

岩手県水産技術センターは、1910年に創設された岩手県水産試験場を前身とする2006年に設立された県立の試験研究機関で、岩手県の水産業を調査・研究の面から支援する役割を果たしてきた（岩手県水産技術センター，2012）。ここでは、昭和の初期頃から周辺海域で採集された海洋生物を収集・保管しており、これまでおよそ200種1,000個体の魚類標本が保管されてきた。このコレクションに基づいて、調査船を用いた深海漁場調査などの資源調査により採集された様々な希少種が報告され、本海域における多様な魚類相が明らかにされてきた（丸山，1970, 1971; 後藤，2000, 2012）。しかし、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波により、釜石湾奥の臨海部に位置する本センターの1階部分が全て浸水し、保管してきた魚類標本コレクションのほぼ全てが流失した（図1）。



図1 東日本大震災津波が直撃した岩手県水産技術センター生物標本保管庫

東北地方では、岩手県以外でも青森県や宮城県を中心とする水産試験研究機関により出現魚類目録が出版され、魚類相の把握に大きな役割を果たしている（塩垣，1982; 塩垣ほか，1992; 座間，2001; 塩垣ほか，2004; 山中・伊藤，2014）。また、東北地方の沖ではトロール調査などによる魚類資源の調査が盛んに行われており、採集された魚類に基づくモノグラフや図鑑が公表されてきた（Shinohara et al., 1996; 後藤，

2000; 北川ほか，2008; Balanov et al., 2009; Shinohara et al., 2009）。

近年、北日本沿岸域では様々な南方系魚類の出現が報告されており、地球温暖化の進行との関連性についての議論がなされている（杉山，2006; Masuda, 2008; 須之部ほか，2014）。しかし、海況変動が大きく季節的な暖流の影響を受ける東北地方では、南方系魚類の出現は季節的な暖水波及に伴う一時的現象であることが多く、時系列的な評価による定着化を指標とする必要がある（須之部ほか，2014; 山中・伊藤，2014）。また、魚類の分類学ではDNAを利用した再評価が積極的に進められており、本海域に出現する魚類においても従来単一種とされてきた種に隠蔽種が含まれていることがいくつかの種で報告されている（例えば、Kai and Nakabo, 2008, 2009; Muto et al., 2013）。

文献による出現記録は、中・長期的な魚類相の変遷を知る上で極めて重要な情報源であるが、出版後に分類学的な変更があると対応できないことがある（山中・伊藤，2014）。従って、生態学的な評価を行う場合においても魚類相の長期的かつ正確な評価を記録としてとどめるだけでなく、後に分類学的な変更があった際にも対応のできるよう、保存標本の存在は極めて重要な役割を果たす（松浦，2003）。学術標本を長期にわたって維持するためには、災害による破損・滅失を避けるだけでなく、保存状態を維持・管理するほか、学術目的での活用への対応ができる体制が必要とされる（松浦，2003）。しかし、水産試験研究機関の多くは高頻度な採集調査を行っている一方、採集後の標本に対する十分な管理体制が整っているのはごく一部に限られる。岩手県水産技術センター所蔵標本も多くは標本瓶に貼り付けられたラベルにのみデータが記載されており、東日本大震災による標本の流失とともにこれらのデータをも失った。そこで、岩手県水産技術センターは、これを教訓として所蔵標本を岩手県立博物館に移管することとした。2015年までに流失を免れた19個体を含む46個体を移管しており、以降、順次採集された標本を移管していく予定である。本報告では、岩手県海域からの初記録となる6種を含む26科39種の標本リストと過去の岩手県水産技術センターにおける保管記録および岩手県周辺海域における出現記録を記載した。

## 方法

標本の同定および上位分類群名は、原則として中坊(2013)に従った。体サイズはノギスを用いて mm 単位で計測し、原則として軟骨魚類では全長(TL)、硬骨魚類では標準体長(SL)を用い、SLの計測が困難な分類群については肛門前長(PAL)を用いた。また、各標本について、採集年月日、採集場所および採集方法を記載した。また、それぞれの種について、岩手県海域からの出現記録および岩手県水産技術センター標本としての保管状況と東日本大震災の影響を併せて記載した。なお、岩手県水産技術センターおよび岩手県立博物館の所蔵標本は、IFESおよびIPMMに続く番号としてそれぞれ記録した。

## 移管標本リスト

### 1. ガンギエイ科 Rajidae

コモンスベ *Okamejei kenoeji*

1 個体：430 mm TL (IPMM 172233: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種は周年通して普通に見られ、主に底刺網で混獲される。丸山(1971)は、岩手県地先から1個体(IFES 272, 1968年7月, 大槌)を *Raja porosa* として報告している。その後、Ishihara(1987)は *R. porosa* を本種の新参同物異名としていたことから、丸山(1971)により報告された個体は本種と判断されるが、東日本大震災津波により流失した。

### 2. ニシン科 Clupeidae

ウルメイワシ *Etrumeus teres*

1 個体：203.6 mm SL (IPMM 172234: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種は夏季に多く出現し、主に定置網で漁獲される(岩田・沼知, 1981)。これまで、岩手県地先から丸山(1971)により1個体(IFES 126: 1968年12月, 船越湾, 大島漁場, 定置網)が報告されているほか、2個体(IFES 786-787: 詳細不明)が保管されていたが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

### 3. ムネエソ科 Sternoptychidae

キュウリエソ *Maurolicus japonicus*

4 個体：43.2 mm SL (IPMM 164556-164559: 2001年5

月25日, 39°21.62' N, 142°09.53' E, 水深252 m, 岩手丸着底トロール); 53.2 mm SL (2001年5月25日, 39°21.62' N, 142°09.53' E, 水深252 m, 岩手丸着底トロール); 51.4 mm SL (2001年5月25日, 39°21.62' N, 142°09.53' E, 水深252 m, 岩手丸着底トロール); 46.1 mm SL (2001年5月25日, 39°21.62' N, 142°09.53' E, 水深252 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種は Mead & Taylor (1953) により岩手県沖から報告されているほか、Balanov et al. (2009) により宮城県から岩手県沖に至る広範囲から報告されている(38°58.4' -40°01.2' N, 60-627 m)。また、青森沖太平洋岸からの報告もある(川端, 1997)。なお、本種は岩手県水産技術センター標本としての保管記録はない。

### 4. ハダカイワシ科 Myctophidae

オオクチイワシ *Notoscopelus japonicus*

1 個体：136.1 mm SL (IPMM 164560: 2001年5月25日, 39°22.32' N, 142°13.54' E, 水深391 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種は丸山(1971)により鮫角東方96海里から2個体(IFES 388-389: 1955年6月5日)、岩手県大釜沖20海里から6個体(IFES 390-395: 1968年6月26-27日)が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

### 5. ハダカエソ科 Paralipididae

フタスジナメハダカ *Lestrolepis intermedia*

1 個体：264.2 mm SL (IPMM 164561: 2001年5月25日, 39°22.32' N, 142°13.54' E, 水深391 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種は Balanov et al. (2009) により岩手県南部沖合の中層(39°00.1' N-39°06.1' N, 210-679 m)から報告されている。また、後藤(2000)により岩手県南部沖から2個体(IFES 1017: 1998年6月29日, 39°21.1' N, 142°10.5' E, 水深301 m, 岩手丸着底トロール; IFES 1018: 1998年7月2日, 39°16.5' N, 142°10.4' E, 水深338 m, 岩手丸着底トロール)が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

### 6. ギンハダカ科 Phosichthyidae

リュウグウハダカ *Polymetme elongata*

1 個体(図2): 132.8 mm SL (IPMM 164570: 2007年

11月30日、39°18.06' N, 142°09.91' E, 水深307 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種はShinohara et al. (1996) により岩手県沖合から報告があるのみ。なお、本種は岩手県水産技術センター標本としての保管記録はない。



図2 リュウグウハダカ *Polymetme elongata*,  
132.8 mm SL

## 7. ダツ科 Belonidae

### 7-1. ダツ *Strongylura anastomella*

1 個体：758.0 mm SL (IPMM 172235: 2015年5月26日, 釜石地先両石湾, 定置網ほっちょうか漁場)。

備考：岩手県沿岸では、本種は夏季に出現し、定置網で時折漁獲される。これまで、丸山 (1971) により岩手県地先から 1 個体 (IFES 61: 1968年11月27日, 船越湾, 大島漁場, 定置網) が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

### 7-2. オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus*

1 個体：844 mm SL (IPMM 172236: 2014年7月16日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種は夏季に出現し、定置網で時折漁獲される。これまで岩手県水産技術センター標本としての保管記録はないが、岩手県北部の種市 (現洋野町) や宮城県南三陸町地先から報告がある (酒井, 1986; 塩垣ほか, 2004)。

## 8. ソコダラ科 Macrouridae

### カラフトソコダラ *Coryphaenoides cinereus*

1 個体：91.0 mm PAL (IPMM 164562: 2001年5月25日, 39°22.32' N, 142°13.54' E, 水深391 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種は岩手県沖の深海域で普通に見られ、イトヒキダラ *Laemonema longipes* とともに底びき網で混獲される (後藤, 2000)。これまで、Shinohara et al. (1996) により岩手県沖から報告がある。また、後藤 (2000) により岩手県沖から 1 個体 (IFES 1026: 1998年5月28日, 39°56.6' N, 142°19.7' E, 水深504 m, 岩手丸着底ト

ロール) が報告されているほか、岩手県水産技術センター標本として 1 個体が保管されていた (IFES 588: 採集データ詳細未記載) が、いずれも東日本大震災津波により流失した。

## 9. カエルアンコウ科 Antennariidae

### ハナオコゼ *Histrion histrio*

1 個体：121.7 mm SL (IPMM 164575: 2013年5月25日, 釜石市地先, 岩手県水産技術センター持ち込み)。

備考：本種は流れ藻に付くことが知られており、東北海域に浮遊する流れ藻から時折採集される (Safran, 1990)。岩手県地先についてみると、丸山 (1971) により 5 個体 (IFES 10: 写真個体, 採集地・採集日不明; IFES 203: 岩手県沿岸, 定置網; IFES 238: 1968年10月23日, 久慈地先, 赤磯漁場, 定置網; IFES 459: 岩手県沿岸?; IFES 470: 1952年7月11日, 黒崎沖, 北上丸採集) が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

## 10. マトウダイ科 Zeidae

### 10-1. カガミダイ *Zenopsis nebulosa*

1 個体：120.8 mm SL (IPMM 172237: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種は夏季から秋季にかけて多く出現し、定置網や底びき網で漁獲される。これまで、丸山 (1971) により岩手県地先から 2 個体 (IFES 45: 1968年12月5日, 山田湾, 垂水漁場, 定置網; IFES 413: 1968年8月23日, 大槌湾, 二丁目漁場, 定置網) が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。また、Balanov et al. (2009) により岩手県南部沖合の中層 (39°02.2' N, 450-478 m) からも報告されている。

### 10-2. マトウダイ *Zeus faber*

1 個体：206.8 mm SL (IPMM 172238: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種は夏季から秋季にかけて多く出現し、定置網や底びき網で漁獲される。これまで、丸山 (1971) により岩手県地先から 1 個体 (IFES 83: 1968年6月23日, 宮古市地先, 根滝漁場, 定置網) が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

11. フリソデウオ科 Trachipteridae

11-13. テンガイハタ *Trachipterus trachypterus*

2 個体：654 mm PAL (IPMM 164565: 2006年12月1日, 39° 12.79' N, 142° 10.62' E, 水深397 m, 岩手丸着底トロール); 680 mm PAL (IPMM 172239: 2014年12月19日, 船越湾, 定置網)。

備考：本種は丸山 (1971) により岩手県地先から1個体 (IFES 89: 1968年8月, 大槌湾, 二丁目漁場, 定置網) が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

11-2. サケガシラ *Trachipterus ishikawae*

2 個体：700 mm PAL (IPMM 164566: 2002年11月14日, 39° 13.00' N, 142° 06.00' E, 水深228 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種は丸山 (1971) により岩手県地先から3個体 (IFES 40: 1962年12月1日, 両石湾, 定置網; IFES 182: 釜石湾, 沖網漁場, 定置網; IFES 242: 松磯漁場, 定置網) が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

12. シャチブリ科 Ateleopodidae

シャチブリ *Ateleopus japonicus*

1 個体 (図3)：242.1 mm TL (IPMM 164569: 2007年11月30日, 39° 18.06' N, 142° 09.91' E, 水深307 m, 岩手丸着底トロール)。

備考：本種はこれまで岩手県沖から採集例がなく、岩手県水産技術センター標本としての保管記録もないため、本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる。



図3 シャチブリ *Ateleopus japonicus*, 242.1 mm TL

13. フサカサゴ科 Scorpaenidae

13-1. ユメカサゴ *Helicolenus hilgendorfi*

2 個体：138.3 mm SL (IPMM 164554: 1998年5月28日, 39° 56.80' N, 142° 13.90E, 水深174 m, 岩手丸着底トロール); 132.6 mm SL (IPMM 164555: 1998年5月28日, 39° 56.80' N, 142° 13.90E, 水深174 m, 岩手丸着底ト

ロール)。

備考：岩手県沖では、本種は上部大陸棚斜面で普通に見られ、延縄や底びき網で漁獲される (後藤, 2000)。これまで、丸山 (1971) により1個体 (IFES 447: 1959年10月7日, トドヶ崎沖7海里) が報告されているほか、後藤 (2000) により2個体 (IFES 1032-1033: 1998年5月28日, 39° 56.80' N, 142° 13.90' E, 水深174 m; 1998年6月10日, 39° 10.00' N, 142° 04.00' E, 水深197 m, 岩手丸着底トロール) が、いずれも東日本大震災津波により流失した。このほか、岩手県周辺海域から広く報告されている (Shinohara et al., 2009)。

13-2. ムラソイ *Sebastes pachycephalus*

1 個体：206.1 mm SL (IPMM 172240: 2015年7月17日, 釜石市地先釜石湾, 定置網釜沖漁場)。

備考：岩手県沖では、本種はごく沿岸域で周年みられ、主に延縄で漁獲される。これまで、丸山 (1971) により岩手県から2個体 (IFES 114: 1939年6月, 釜石地先, 釜石魚市場; IFES 186: 1939年5月, 釜石沖) が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

13-3. タヌキメバル *Sebastes zonatus*

1 個体：170.2 mm SL (IPMM 172241: 2014年7月1日, 釜石市唐丹地先, 延縄, 北上丸)。

備考：岩手県沖では、本種は沿岸の水深100 m 付近で普通に見られ、主に延縄で漁獲される。丸山 (1971) は、1968年と1970年に採集された2個体をキツネメバル *S. vulpes* として報告した (IFES 274: 1968年6月13日, 釜石湾, 刺網; IFES 59: 1970年7月9日, 大槌町沖御箱崎沖, 小延縄)。従来、キツネメバルは2種類の体色型があることが知られており (松原, 1943)、Chen & Barsukov (1976) は、一方を新種 (*S. zonatus*) として記載した。その後、たびたびコウライキツネメバル *S. ijimae* を含めてキツネメバルの新参同物異名とされてきた (金山・北川, 1983) が、近年の研究により両種は有効種とされている (Muto et al., 2013)。丸山 (1971) がキツネメバルと査定した個体は、いずれも Chen & Barsukov (1976) 以前の査定結果によるもので、キツネメバル種群のいずれの種を示しているかはっきりしない。また、これらの標本はいずれも東日本大震災津波により流失したため、どの種であるかは明らかではない。しかし、岩手県沿岸での資源調査に

より釜石沿岸から採集される個体はいずれもタヌキメバルであるから、丸山（1971）により報告された個体は本種である可能性が高い。

#### 13-4. シマゾイ *Sebastes trivittatus*

1 個体：199.2 mm SL (IPMM 172242: 2014年7月18日, 釜石市地先, 延縄)。

備考：岩手県沖では、本種は沿岸域に出現し、延縄などで時折混獲される。これまで、岩手県地先で採集された1個体（IFES 682: データ詳細不明）が岩手県水産技術センター標本として保管されていたが、東日本大震災津波により流失した。

#### 14. ホウボウ科 Triglidae

##### 14-1. ホウボウ *Chelidonichthys spinosus*

1 個体：327.0 mm SL (IPMM 172243: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沖では、本種は夏季から秋季にかけて沿岸域に多く出現し、定置網で漁獲される。これまで、丸山（1971）により岩手県地先から1個体（IFES 142: 1968年, 沿岸定置網）が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

##### 14-2. カナガシラ *Lepidotrigla microptera*

1 個体：203.8 mm SL (IPMM 172244: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沖では、本種は夏季から秋季にかけて沿岸域に多く出現し、定置網で漁獲される（岩田・沼知, 1981）。これまで、丸山（1971）により岩手県から2個体（IFES 53: 1968年, 沿岸定置網; IFES 461: 1939年7月, 釜石魚市場）が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

#### 15. アジ科 Carangidae

##### カンバチ *Seriola dumerili*

1 個体：214.6 mm SL (IPMM 172245: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沖では、本種は夏季に小型個体が多く出現し、定置網で漁獲される（岩田・沼知, 1981）。これまで、丸山（1971）により岩手県から1個体（IFES 250: 1968年10月21日, 船越湾, 大島漁場, 定置網）が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

#### 16. フエダイ科 Lutjanidae

##### ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus*

1 個体：525.0 mm SL (IPMM 164563: 2005年10月12日, 宮古市田老地先, 定置網)。

備考：本種は、Goto（2006）により岩手県から1個体（IFES 2005001）が初めて報告された（岩手県水産技術センター, 2005）。本種はインド・太平洋に広く分布し、我が国では和歌山県以南の南日本から知られているが、岩手県を含む北日本周辺からの報告は認められておらず、暖水波及による偶発的な来遊であると考えられている（Goto, 2006; 中坊, 2013）。

#### 17. マツダイ科 Lobotidae

##### マツダイ *Lobotes surinamensis*

1 個体：210.6 mm SL (IPMM 172246: 2015年7月9日, 釜石市唐丹地先, 釜石市地先, 金島漁場, 定置網)。

備考：岩手県沖では、本種は夏季に出現し、定置網で時折混獲される。これまで、丸山（1971）により岩手県地先から1個体（IFES 277: 1963年9月28日, 船越湾, 大島漁場, 定置網）が報告されているが、東日本大震災津波により流失した。

#### 18. タイ科 Sparidae

##### チダイ *Evynnis tumifrons*

1 個体：187.2 mm SL (IPMM 172247: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沖では、本種は夏季から秋季にかけて多く出現し、定置網で漁獲される。これまで、丸山（1971）により岩手県から2個体（IFES 43: 1941年12月15日, 吉浜湾, 小壁漁場, 定置網; IFES 172: 1968年8月6日, 釜石沖）が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

#### 19. ニベ科 Sciaenidae

##### 19-1. ニベ *Nibea mitsukurii*

1 個体：213.2 mm SL (IPMM 172248: 2015年7月18日, 釜石市地先釜石湾, 定置網釜沖漁場)。

備考：岩手県沖では、夏季を中心に出現し、定置網で時折混獲される。これまで、岩手県水産技術センター標本としての保管記録はないが、丸山（1971）は岩手県地先から採集された1個体（IFES 261: 1968年6月16日, 船越湾, 定置網大島漁場）をフウセイ *Larimichthys crocea* として報告している。本個体は東日本大震災津

波により流失したが、丸山（1971）の写真から判断すると、本種である可能性が高い。

19-2. シログチ *Pennahia argentata*

1 個体：223.8 mm SL (IPMM 172249: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：本種はこれまで岩手県沖から採集例がなく、岩手県水産技術センター標本としての保管記録もないため、本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる。岩手県周辺では松島湾、仙台湾から報告がある (Jordan & Thompson, 1914; 松原, 1955; 座間, 2001) ほか、八戸地先から報告がある (川端, 1997)。

20. ウミタナゴ科 Embiotocidae

オキタナゴ *Neoditrema ransonnetii*

1 個体：156.3 mm SL (IPMM 172250: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沖では、ごく沿岸域に周年出現し、刺網や磯建網などで主に漁獲される (立川・田中, 1982)。これまで、1 個体 (IFES 240: 詳細な採集データ不明) が岩手県水産技術センター標本として保管されていたが、東日本大震災津波により流失した。

21. タチウオ科 Trichiuridae

ナガユメタチモドキ *Assurger anzac*

1 個体 (図4)：2530 mm TL (IPMM 164564: 2006年5月25日, 岩泉町小本地先, 定置網須久洞漁場)。

備考：本種はこれまで岩手県からの採集例がなく、岩手県水産技術センターとしての保管記録もないため、本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる (岩手県水産技術センター, 2006)。周辺海域では、青森県佐井村から採集例 (1995年3月7日) があるほか、津軽海峡周辺から報告されている (塩垣ほか, 2004)。



図4 ナガユメタチモドキ *Assurger anzac*, 2530 mm TL

22. クロタチカマス科 Gempylidae

ホソクロタチ *Diplospinus multistriatus*

2 個体 (図5)：383.5 mm SL (IPMM 164571: 2007年

11月30日, 39° 18.96' N, 142° 11.29' E, 水深355 m, 岩手丸着底トロール); 166.6 PAL (IPMM 164572: 2007年11月30日, 39° 18.96' N, 142° 11.29' E, 水深355 m, 岩手丸着底トロール, 尾部破損)。

備考：本種はこれまで岩手県からの採集例がなく、岩手県水産技術センター標本としての保管記録もないため、本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる。本種はこれまで駿河湾以南からの報告があるのみで、周辺海域からの採集例はない (中坊, 2013)。



図5 ホソクロタチ *Diplospinus multistriatus*, 383.5 mm SL

23. イレズミコンニャクアジ科 Icosteidae

イレズミコンニャクアジ *Icosteus aenigmaticus*

2 個体：188.8 mm SL (IPMM 164567: 2007年6月27日, 釜石市地先, 定置網); 160.3 mm SL (IPMM 164568: 2007年6月27日, 釜石市地先, 定置網) (岩手県水産技術センター, 2009)。

備考：これまで、丸山 (1971) により岩手県地先から 2 個体 (IFES 330: 1968年7月17日, 船越湾, 定置網大島漁場; IFES 143: 1957年7月20日, 釜石, 大平漁場) が報告されているが、いずれも東日本大震災津波により流失した。

24. カレイ科 Pleuronectidae

メイタガレイ *Pleuronichthys cornutus*

1 個体：154.8 mm SL (IPMM 172251: 2014年7月18日, 釜石市地先, 定置網)。

備考：岩手県沿岸では、本種はごく浅海域に生息し、定置網で時折混獲される。これまで、丸山 (1971) により 1 個体 (IFES 292: 1968年11月5日, 宮古市地先, 三丁目漁場, 定置網) が岩手県地先から報告されているほか、1 個体 (IFES 649: 採集データ詳細不明) が岩手県水産技術センター標本として保管されていたが、いずれも東日本大震災津波で流失した。

25. カワハギ科 Monacanthidae

25-1. ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*

1 個体：180.6 mm SL (IPMM 172252: 2014年7月18日,

釜石市地先，定置網)。

備考：岩手県沖では，本種は沿岸域に多く生息し，定置網で漁獲される(岩田・沼知，1981; 立川・田中，1982)。これまで，丸山(1971)により1個体(IFES 145: 1968年11月29日，仁位達漁場，定置網)が岩手県から報告されているほか，1個体(IFES 299: 採集データ詳細不明)が岩手県水産技術センター標本として保管されていたが，いずれも東日本大震災津波で流失した。

#### 25-2. ソウシハギ *Aluterus scriptus*

1個体(図6)：338.0 mm SL (IPMM 164574: 2013年9月17日，釜石市地先，定置網)。

備考：本種はこれまで岩手県沖から採集例がなく，岩手県水産技術センター標本としての保管記録もないため，本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる。本種は南方系魚類で，対馬暖流によって津軽海峡まで輸送されて下北半島から採集記録がある(松浦ほか，1988)ほか，太平洋側では宮城県石巻および南三陸地先から報告がある(座間，2001)。



図6 ソウシハギ *Aluterus scriptus*, 338.0 mm SL

### 26. フグ科 Tetraodontidae

#### 26-1. ショウサイフグ *Takifugu snyderi*

1個体：207.8 mm SL (IPMM 172253: 2014年7月18日，釜石市地先，定置網)。

備考：岩手県沿岸では，本種は夏季を中心として出現し，定置網で時折混獲される。これまで，丸山(1971)により1個体(IFES 215: 1968年8月31日，吉浜湾，小壁漁場，定置網)が報告されているが，東日本大震災津波で流失した。

#### 26-2. コモンフグ *Takifugu poecilonotus*

1個体：136.2 mm SL (IPMM 172254: 2014年7月18日，釜石市地先，定置網)。

備考：岩手県沿岸では，本種はほぼ周年を通して普通に見られ，定置網で多獲される。これまで，丸山

(1971)により1個体(IFES 214: 1968年12月16日，宮古湾，三丁目漁場，定置網)が報告されているが，東日本大震災津波で流失した。

#### 26-3. シロサバフグ *Lagocephalus wheeleri*

1個体：109.3 mm SL (IPMM 164573: 2012年11月12日，釜石市地先，定置網)。

備考：本種はこれまで岩手県からの採集例はなく，岩手県水産技術センター標本としての保管記録もない。丸山(1971)によりサバフグ *L. lunaris spadiceus* として報告されている岩手県地先採集個体(IFES 221: 定置網根滝漁場)と同一種と考えられるが，東日本大震災津波により流失した。周辺海域では，八戸沖から採集例がある(川端，1997)ほか，宮城県からも報告されている(座間，2001)。

#### 26-4. モヨウフグ *Arothron stellatus*

1個体(図7)：398.0 mm SL (IPMM 172255: 2015年9月14日，釜石市唐丹地先，金島漁場，定置網)。

備考：本種はこれまで岩手県沖から採集例がなく，岩手県水産技術センター標本としての保管記録もないため，本海域では本個体がこれまでの唯一の採集例となる。周辺海域では松島湾を含む仙台湾周辺から報告があるのみ(谷田ほか，1957; 座間，2001)。



図7 モヨウフグ *Arthron stellatus*, 398.0 mm SL

#### 26-5. クマサカフグ *Lagocephalus lagocephalus*

1個体(図8)：398.0 mm SL (IPMM 172256: 2015年9月15日，越喜来沖39°03' N, 142°03' E, 水深263 m, たらはえ縄)。

備考：本種はこれまで岩手県沖から採集例がなく，岩手県水産技術センター標本としての保管記録もない。周辺海域では，岩手県北部に隣接する青森県階上から報告があるのみ(1998年8月17日，定置網，358 mm SL: 塩垣，2004)。





図8 クマサカフグ *Lagocephalus lagocephalus*, 398.0 mm SL

## 謝辞

岩手県水産技術センターから岩手県立博物館への魚類標本の移管にご理解を頂いた岩手県立博物館中山敏館長および岩手県水産技術センター井ノ口伸行元所長と佐久間修所長に深く感謝申し上げます。また、岩手県水産技術センターが収集・保管する標本は、岩手県水産技術センター所有の調査船「岩手丸」と「北上丸」により採集されたものと県内各魚市場で水揚げされたものが大部分を占めています。魚類標本の採集にご協力賜りました調査船乗組員諸氏のほか、岩手県内各魚市場職員諸氏および原義昭調査員に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

Balanov AA, Moku M, Kawaguchi K & Shinohara G (2009) Fishes collected by commercial size midwater trawls from the Pacific coast off northern Japan. National Museum of Nature and Science Monographs(39): 655-681.

Chen LC & Barsukov VV(1976) A study of the western north Pacific *Sebastes vulpes* species complex(Scorpaenidae), with description of a new species. Japanese Journal of Ichthyology 23: 1-8.

後藤友明 (2000) 岩手県沖合における底生性魚類相。岩手県水産技術センター研究報告(2): 1-13.

Goto T (2006) A record of mangrove red snapper, *Lutjanus argentimaculatus*, from Iwate Prefecture, northern Honshu, Japan. Bulletin of Iwate Prefectural Fisheries Technology Center 6: 15-17.

後藤友明 (2012) 岩手県で最近採集された希少板鰓類の記録。板鰓類研究会報 48: 28-32.

岩手県水産技術センター (2005) 岩手の海に現れた珍しい魚 - ゴマフエダイ -. 岩手県水産技術センターニュース シーガルボイス (21): 8.

岩手県水産技術センター (2006) 岩手の海に現れた珍しい魚 - ナガユメタチモドキ -. 岩手県水産技術セン

ターニュース シーガルボイス (22): 8.

岩手県水産技術センター (2009) 岩手の海に現れた珍しい魚 - イレズミコンニャクアジ -. 岩手県水産技術センターニュース シーガルボイス (26): 8.

岩手県水産技術センター (2012) 岩手県水産試験場 岩手県水産技術センターの100年. 100周年記念誌編集委員会編, 岩手県水産技術センター、釜石.

Ishihara H (1987) Revision of the western north Pacific species of the genus *Raja*. Japanese Journal of Ichthyology 34: 241-285.

岩田宗彦・沼知健一 (1981) 大槌湾における漁業相性生物群集の組成変化の研究. 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告 7: 35-46.

Jordan DS & Thompson WF (1914) Record of the fishes obtained in Japan in 1911. Memoir of Carnegie Museum 6: 205-313, pls. 24-42.

Kai T & Nakabo T (2008) Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex( Scorpaeniformes: Scorpaenidae ). Ichthyological Research 55: 238-259.

Kai T & Nakabo T (2009) Taxonomic review of the genus *Cottiusculus* (Cottoidei: Cottidae) with description of a new species from the Sea of Japan. Ichthyological Research 56: 213-226.

金山勉・北川大二 (1983) 岩手の魚類Ⅱ、ソイームスケ類. 岩手県水産試験場、釜石.

川端淳 (1997) 青森県太平洋岸浅海域における魚類相の季節変化. 東北区水産研究所研究報告(59): 83-94.

Mead GW & Tylor FHC (1953) A collection of oceanic fishes from off northeastern Japan. Journal of the Fisheries Research Board of Canada 10: 560-582.

丸山潔 (1970) 東北地方深海産魚類. 東北区水産研究所研究報告(30): 43-50, figs. 1-7.

丸山潔 (1971) 岩手県魚類目録. 岩手県水産試験場研究報告(1): 1-70.

松原喜代松 (1955) 魚類の形態と検索. I - III. 石崎書店、東京.

松浦啓一 (2003) 国立科学博物館叢書③、標本学 - 自然史標本の収集と管理. 東海大学出版会、東京.

Muto N, Kai Y & Nakabo T (2011) Genetic and morphological differences between *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes:

- Scorpaenidae). Fishery Bulletin 109: 429-439.
- 中坊徹次 (2013) 日本産魚類検索 全種の同定、第三版. 東海大学出版会、東京.
- Safran P (1990) Drifting seaweed and associated ichthyofauna: floating nursery in the Tohoku waters. La mer 28: 225-239.
- 酒井敬一 (1986) 魚類図鑑. 南三陸の沿岸魚. 志津川町.
- Shinohara G, Endo H & Matsuura K (1996) Deep-water fishes collected from the Pacific coast of northern Honshu, Japan. Memoirs of the National Science Museum (29): 154-185.
- Shinohara G, Narimatsu Y, Hattori T, Ito M, Takata Y & Matsuura K (2009) Annotated checklist of deep-sea fishes from the Pacific coast off Tohoku district, Japan. National Museum of Nature and Science Monographs 39: 683-735.
- 塩垣優 (1982) 青森県産魚類目録. 青森県水産. 試験場報告、青森。
- 塩垣優・野村義勝・杉本匡 (1992) 青森県産魚類目録補訂. 青森県水産増殖センター研究報告(7): 17-31.
- 塩垣優・石戸芳男・野村義勝・杉本匡 (2004) 改訂青森県産魚類目録. 青森県水産総合研究センター研究報告4: 39-80.
- 杉山秀樹 (2006) 東北地方における気象淡水魚類 - 現状と温暖化の影響 -. 月刊海洋38: 221-227.
- 須之部友基・川瀬祐司・坂井陽一・清水則雄・望岡典隆・田和篤史・竹垣毅・中村洋平・出羽慎一 (2014) 地球温暖化と南日本各地における魚類相の比較. 千葉県生物多様性センター研究報告(7): 3-13.
- 立川賢一・田中昌一 (1982) 大槌湾沿岸域における魚類群集調査. 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告 8: 49-68.
- 谷田専治・堀田秀之・菅浪晋一郎 (1957) 松島湾の魚類相について. 日本水産学会東北支部会報 8: 1-10.
- 山本智之・伊藤欣吾 (2014) 改訂青森県産魚類目録補訂 - I. 青森県産業技術センター水産総合研究所研究報告(8): 1-10.
- 座間彰 (2001) 宮城県の魚類相. 三和印刷, 石巻.

## 要旨

岩手県水産技術センターは、岩手県の水産業に関する研究機関として1910年に設立され、釜石の臨海地区に位置している。ここでは、漁業資源調査により採集

された200種1000個体近い魚類を含む多くの海洋生物が科学標本として保管されてきた。しかしながら、2011年3月11日の東日本大震災津波により、これらの標本の大部分が流失した。そこで、津波などの災害からの被害を避けるほか、学術標本として適切に保管・管理することを目的として、岩手県立博物館に標本を移管することとした。2014年以降、流失を免れた19個体を含む46個体の魚類標本の移管を完了している。本報告ではこれらの標本に基づいた26科39種の目録を作成した。

**キーワード**：岩手県水産技術センター、魚類、岩手県立博物館、岩手沖、標本